

実践2

授業の実際

児童が選択した習熟度別学習

	考え方コース		かけ算の決まり コース(人)	計算コース (人)
	基本(人)	応用(人)		
第6時	7	5	3	9
第7時	2	9	6	7

3人の児童の学習の足跡

ア：A男の場合

評価テストでは、「数学的な考え方」の立式は正しくできるのだが、言葉でそのわけを説明することができない。

<習熟度別学習>

立式したら、仲間にそのわけを説明したり、また聞いたりすることで、次第に自信をつけ、的確に表現できるようになる。

イ：B子の場合

毎時間のふり返りの自己評価を見ると、授業の前後には一応きまりはわかるのだが、事中では、必ずしもわかっているとはいえない。第5時は、TTで個別指導を受けるのだが、一般化を図るまでには至っていない。

<習熟度別学習>

教師の援助を受けながら、2つの方法で計算をし、答えが同じであること、等号で結べることを確認し、プリントにまとめる。その後、練習問題を解く。15問中、まちがいは2問となる。

ウ：C男の場合

0のかけ算は、なぜ答えが0になるのか、そのわけも正しく理解できている。それに比べて、10のかけ算を考えると、九九の表で形式的に $\times 9$ の答えにかけられる数をたして答えを求めただけで、まだ十分に定着していないと考えられる。

<習熟度別学習>

3口のかけ算、10のかけ算(基本)、何十、何百のかけ算(発展)に挑戦する。

10のかけ算のいろいろな場合を練習したことや、発展問題までできたことで自信をつける。